文化庁月報



1979-12

No.135

表紙 雀に藪柑子図 (四季花鳥図屛風部分) 酒井抱一筆

解説は22ページ参照 題字デザイン・桑山弥三郎 カット・林美紀子

もくじ

母親と教師のことばを外山滋比古4
能楽の現状と国立能楽堂への期待矢野輝雄6
〔報告〕
ユネスコの文化活動の動向宮本繁雄9
スペインの文化財保存
——昭和54年度文部省在外研究員報告——
工藤圭章11
文化庁ニュース
昭和54年度文化勲章受章者、文化功労者決定 ······14
昭和54年秋の褒章受章者決定・・・・・15
昭和54年秋の勲章受章者決定15
第24回指定文化財 (美術工芸品)
修理技術者講習会終わる16
昭和54年度都道府県宗教法人
事務担当職員研修会の開催・・・・・・16
第26回文化財保護強調週間16
昭和54年度文化財愛護全国研究集会 ·····17
米国巡回 円山四条派絵画展
応挙と芦雪17
〔報告〕
わが国宗教界の概況文化庁文化部宗務課18
民俗歳時記シリーズ 12月
冬至······榎本由喜雄·····23
我が県の文化行政
うるおいのある人間性豊かな県民の育成へ
山形県の文化行政・山田信-・・・・25
著作権シリーズ(7)
他人の著作物を自由に利用することが
できる場合(下)28
美術館・博物館・文化施設めぐり③
身近なものの歴史をひもとく
——町田市立博物館——…30
国立劇場ニュース31

能楽の現状と国立能楽堂への期待



その自伝の最後を次のような言葉で結んで から年物故された狂言の人間国宝野村万蔵さん がか

は、昨

おられる。

「日本には公共の能楽堂がまだない。外人から「日本には公共の能楽堂がまだない。外人からとを聞かれる。はやく国立の能楽を立の建設の早期実現を力説され、何年か前の能楽協会の新年会でも、万作さんの「釣狐」受能楽協会の新年会でも、万作さんの「釣狐」受能楽協会の新年会でも、万作さんの「釣狐」受力が表したのを想い出す。

いる。まことに朗報といわねばならない。出し、この夏には基本設計も完了したと聞いて楽堂も、正夢としてようやく実現の方向へ歩み楽堂も、正夢としてようやく実現の方向へ歩み

に国立能楽堂建設の必要性を説いて倦むところ舞台をつとめてこられた名人が、なぜこのようそれにつけても、明治・大正・昭和の三代の



(国立能楽堂設立準備調査会委員)



かせたのにちがいない。今は再び御本人の口がなかったのであろうか。今は再び御本人の口があり、能・狂言の将来を見透す何物かが激しく万蔵さんを動かしてこの言葉を吐物かが激しく万蔵さんを動かしている。

今日の能・狂言の隆盛は有史以前ともいわれ 今日の能・狂言の隆盛は有史以前ともいわれ 関本東京には観世、宝生、喜多、矢来、梅若な 現在東京には観世、宝生、喜多、矢来、梅若な が 備され、シーズンには文字どおり連日能・狂言が催され、シーズンには文字どおり連日能・狂言が 備され、シーズンには文字どおり連日能・狂言が にある。当然のことながらの会がひしめきあっている。当然の時代に匹敵するという人ごえもいる。

合う三役の数は限られており、そこに多くの無は忙しくなるわけであるが、シテ方の需要に見早い話、能会の多いことはそれだけ演者の方

では、できないでは、できないい、いずれを欠いても能は成り立たない。 にはシテ中心の演劇であるとはいいながら、ご能はシテ中心の演劇であるとはいいながら、ごれもが不可欠を要素をなしているのである。 理が生じる。三役とはワキ方、囃子方、狂言方理が生じる。

で 大部分の時間をワキ座に座りきりといった曲も大部分の時間をワキ座に座りきりといった曲も さげようという若い後継者が少ないのも現代の さげようという若い後継者が少ないのも現代の さげようという若い後継者が少ないのも現代の はなおの でもあろう。ことに関西ではワキ方の払底

ある。 ٦ の成果を立証するものであるといえよう。楽養成会から育っていることは、事実としの楽師を育成して来ており、現在の中堅腐 役養成会が発足し、 が少なく将来への危惧はぬぐい切れないも 幸い囃子方については、 なおワキ方や囃子方などについては志望者 二十五年の歴史の上に多く 昭和二十九年能楽三 現在の中堅層が能 事実として L Ŏ が か そ

6

特たれている。笛方人間国宝藤田大五郎さんの けであるが、明治期の激動の中では観世座付の けであるが、明治期の激動の中では観泄座付の けであるが、明治期の激動の中では観泄座付の たあれ、このような廃絶の危機はまぬかれてい るが、決して手放しで安心できる状態とはいい るが、決して手放しで安心できる状態とはいい るが、決して手放しで安心できる状態とはいい を表れ、このような廃絶の危機はまぬかれてい るが、決して手放しで安心できる状態とはいい を表れ、このような廃絶の危機はまぬかれている。 というで表している。 というで表している。 というで表している。 というで表している。 というで表している。 というで表している。 というで表している。 というできる状態と一度の危

うというものである。

うというものである。

この世智辛い時代年でやっと一人前だという。この世智辛い時代に内弟子など割に合わない修業をする人が少ないのは伝統芸能のいずれの分野においても同じいのは伝統芸能のいずれの分野においても聞子だと思われるが、この一言をもってしても囃子だと思われるが、この一言をもってしても囃子

このような危機感は人の面ばかりではなく、面装束小道具などについても同様である。例え音色を出すという。音が出るまでに十年かかる音色を出すという。音が出るまでに十年かかるとも聞いている。大鼓に使う皮やこれをり、装束などの職人も手薄である。能や狂言をり、装束などの職人も手薄である。能や狂言をり、装束などの職人も手薄である。能や狂言をり、装束などの職人も手薄である。能や狂言をり、装束などの職人も手薄である。能や狂言をり、装束などの職人も手薄である。能や狂言をり、装束などの職人も手薄である。能や狂言をり、装束などの職人も手薄である。れるが、そのためには長期的展望に立った総合れるが、そのためには長期的展望に立った総合れるが、そのためには長期的展望に立った総合れるが、そのためには長期的展望に立った総合れるが、そのためには長期的展望に立った総合れるが、そのためには、大力によりないる。

行としては成立しないであろう。限られた客席にといては成立しないであるが、能に必要なすべてを新調によって賄うとすが、能に必要なすべてを新調によって賄うとすが、能に必要なすべてを新調によって東さいうを必要とする。成り立たせるためには多くの経費を必要とする。成り立たせるためには多くの経費を必要とする。成り立たせるためには多くの経費を必要とする。

一回限りの演能という能の特性から来る制約は、これを放置すればたちまち瀕死の状態に追い込これを放置すればたちまち瀕死の状態に追い込まれることが予想される。にもかかわらず、今日能・狂言がともかく成り立っているのは、過去的、将来、文化遺産として承継し、その発展をはかるためには常に新しい施策を続けていかなければならないのである。これは、ちょうど何百年かの古酒を賞味するために、酒を汲み出すつど新しい酒を補充し、常に細心の注意を払って管理することが必要とされているのと同じであるといえる。

すものこそ国立能楽堂にほかならないのである。期にわたる伝承の基礎を作る中心的役割を果ためどもなく拡がりつつあることを忘れてはならめどもなく拡がりつつあることを忘れてはなら明在能・狂言の隆盛といわれているかげには、現在能・狂言の隆盛といわれているかげには、

への役割が示されているといえよう。をもつ。ここにも国立能楽堂の果たすべき将来をもつ。

既設の多く あろう。 あるが、 ある。 ど新鮮さをもって観る者に訴えることは必定で衣」の舞い込み、あるいは「江口」の後の出な うな舞台で演ぜられる「清経」の音取りや「羽 空間を再現しようというものであって、 うよりも、かつて能がもっていた屋外の自由なよう計画されている。これらは新しい工夫とい とって演技の奥行きと拡がりを十分表現できる はるかに奥行きのある演技空間を形成できるで これは京都本願寺北舞台の三十度よりは浅いが、あるが、舞台に対して約二十六度の深さをもち、 されているのも期待がもてる。例えば橋懸りで舞台ではなかなか実現できなかった試みが採用 楽堂の一つの魅力となることであろう。 また中心となる舞台についても、 橋懸りの側面も壁との間隔をたっぷり の舞台が十度余であるのに比べると これまでの 国立のよ が

____ 7 ____

魔にならぬよう設けられる計画となっている。不百五十席よりは下廻る。また、地裏に関係の七百五十席であるのをわずかに上廻り、旧宝生六百五十席であるのをわずかに上廻り、旧宝生六百五十、株職のであるのを高の収容人員は定席六百五十、補助席を含客席の収容人員は定席六百五十、補助席を含

見やすい舞台であるために、客席や照明など細ずれにせよ演者にとって舞いやすく、観客には見所など詳細はこれからと聞いているが、い

議論がつくされることが望ましいといえよう。めには既設能楽堂の長所短所について、十分な心の配慮が払われることは当然であり、そのた

はその な一面、 らない。 失った今日では、他の伝統芸能の分野これ、と承のためには大きな事業である。多くの名手を 堂が果たすべき役割は頗る大きいものがあると の低下が憂慮されるだけに、ここでも国立能楽 役割を果たしてほし 積極的にすす と狂言は著しく遅れていることが悔やまれてな なかったが、 台芸術として は残ることなく 0 かい いえる。 Z ※期待されるものに記録保存の問題が の名人名手 た今日では、他の伝統芸能の分野に比し能 『立能楽堂の建設によって、 とどめられて、 性質上一公演 長老名手の死去により、 その意味でも国立能楽堂が記録保存を 8 優れ ったち 理想のこととする演者もないでは 、今日にいたっている。 それを舞 て、視聴覚に訴える記録としてちの舞台が人びとの脳裡の中に公演一回限りであるために、多 あわせて公開という形でその た舞台を後に伝えることは伝 いと思う。能・狂言のさかん の問題がある。能、早期にその実現 全体的な技倆

公演であり、能楽協会の式能や囃子科協議会、の問題であるといわれる。というのも多くの公の問題であるといわれる。というのも多くの公の問題であるといわれる。というのも多くの公の問題であるといわれる。というのも多くの公がにより、新たな観客層を開拓していくことがという。

切符の入手もわずらわしさが伴う。内での発表会的な色彩を少なからずもっている。内での発表会的な色彩を少なからずもっている。の演能がないではないが、大部分の公演は流派の演能がないではないが、大部分の公演は流派

このような興行形態を抜け出すためには、番組の編成にあたっては、まず実力をもつ魅力的 組の編成にあたっては、まず実力をもつ魅力的 のこととして名手の芸の公開とともに、若い人たちにも将来の展望を与えうるような番組が用意されなければならない。国立能楽堂は演者にとっても観客にとっても開かれた能楽堂であってほしいのである。

そこで想い起こすのは、かつて危機を叫ばれた文楽が国立劇場を拠点として見事に立ち直った文楽が国立劇場を表った方によって今見まばらであった文楽が若い人たちによって今見まばらであった文楽が若い人たちによって今見まばらであった文楽が若い人たちによって今見まびらであった文楽が活い人だちによって今見まびらであった。 これは国立劇場にとの名を強を叫ばれるであろう。国立能楽堂に特にこの点を強く期待であろう。国立能楽堂に特にこの点を強く期待したいと思う。

催し物が能については伝統芸術振興会(代表南芸術劇場などの催しも、能・狂言についても当然行われるべきことであろう。文化庁による青少年われるべきことであろう。文化庁による青少年また、現在国立劇場で実施し成果をあげていまた、現在国立劇場で実施し成果をあげていまた、現在国立劇場で実施し成果をあげていまた。現在国立劇場で実施し成果をあげていまた。現在国立劇場で実施し成果をあげていまた。

部案希さん)など個人の情熱と演者の犠牲的な協力によって実施されているのは、能・狂言の公演が採算の合いにくいものだけに痛々しさをすら覚えるのである。さきに述べた能楽養成会なども同様で、養成講師として自ら手をとって指導にあたられる人間国宝の方たちへの謝礼も僅少なものときいているが、個人の善意や情熱によりかかって支えられるところには限度がある。したがって、これら青少年をはじめとする一般したがって、これら青少年をはじめとする一般への能・狂言の普及のための諸施策は、国立能楽堂が完成した晩は、まっ先に手をつけてほしい仕事の一つである。

国立能楽堂の建設――それは決して新しい能和ないる。そこでは国劇の名にふさわしい優れた能・狂言の公演のみならず、記録保存、後継者の育成、能面や装束・楽器などの製作技術の保存、研究資料の蒐集と公開、あるいは新しい観客づくりや国際協力などについても幅広い活動が期待される。すべての面で八十年代以降の能・狂言の世界を力強く支えていく中核的存在であってほしいと思う。

----- 8 -----

国立能楽堂の建設――それは決して新しい能国立能楽堂の建設――それは決して新しいの人びとに勇気と希望を与え、また一般はないし、またそうであっては困るのである。はないし、またそうであっては困るのである。

生まれ出ることを心から期待したい。

■歌舞伎公演

戻 橋 背蓋 細: 標 三幕四場

·
暫·
土蜘蛛·
団十郎狂乱·
山 一月三日~二十八日 姥

か

あり、謀叛人や妖異の者の活躍あり、品でも「しばらく」あり、「だんまり」品でも「しばらく」あり、「だんまり」い顔ぶれの俳優の魅力を十分発揮させい顔ぶれの俳優の魅力を十分発揮させ 知が盛り込まれ、いかにも文化爛熟期をなぞっているが、中に作者独特の機舞踊劇ありというぐあいに、その約束 き顔見世に上演される狂言には、新し見世狂言である。芝居正月ともいうべ十一月、江戸市村座に書きおろした顔 四世鶴屋南北が文化十年(一八一三)

の産物にふさわしい傑作である。 の産物にふさわしい傑作である。 初演以来、今度は百七十年ぶりの上演。利倉幸一監修により、全六幕十二場の原作のうち、一番目三建目(第一基)返しの「軽黒山荘」と「土蜘蛛のだんまり」、六建目(第四幕)の「頼光でんまり」、六建目(第四幕)の「親子連 活される 枝鷺 (山姥と金太郎)」の計四場面が復

源頼光とその四天王の周辺が題材で、俗に「前太平記の世界」といわれる

平将門の遺児良門の復讐、土蜘蛛の妖 ・ 山焼などが描かれる。まず、「髭黒術、山姥などが描かれる。まず、「髭黒術、山姥などが描かれる。まず、「髭黒 た御殿で、 「だんまり」は花山院古御所が背景でするのがおもしろい。 の髭黒左大将が酒呑童子の扮装で登場 暴威をふるう敵役(ウケ)

錦絵のように妖美な舞台が展開される。 家の重宝蜘切丸の名剣をめぐる争いで 主役は相馬太郎良門・袴垂保輔・土蜘 蛛の精実は将門息女七綾姫の三人。源



「土蜘蛛」

「頼光館」は、蜘切丸詮議のために、な趣向が設けられている。に変わって捕手を悩ませるという華麗 官女姿で現れ わけ ?れ、のち美しい振袖の娘姿蜘蛛の精が最初十二単衣の

三田源太広綱と名のる上使が二人も現て騒動が起きる。そのほか煙草売およし、田舎娘於岩などがつぎつぎに登場し、館を守る園生の前や大宅太郎らとの間に虚々集々のかけひきがあって、最後は二人の上使のうち一人は良門、 あらわす。 顔見世狂言らし

も、いつもの『山姥』(薪荷雪間の市川) という内容。大筋も踊りのみどころるという内容。大筋も踊りのみどころるという内容。大筋も踊りのみどころるという内容。大筋も踊りのみどころるという内容である。 なっている。 でありないが、怪童丸を推挙する山袋鉄蔵が登場するという構成に一人山賤鉄蔵が登場するという構成にと変わりないが、怪童丸を推挙する山と変わりないが、怪童丸を推挙する山

松緑が珍しくも女方に扮し、良門と早 大塚が珍しくも女方に扮し、良門と早 が、父松緑から当り役を譲り受 原之助が、父松緑から当り役を譲り受 展之助が、父松緑から当り役を譲り受 ない。 多い公演である。 替りで演じる。また、辰之助の長男嵐

(大劇場)

■琉球芸能公演

御冠船踊と雑踊

一月十九日・二十日 (小劇場)

定席・下席 初春国立名人会 一月二十一日~二十日 一月二十一日~二十日 (演芸場)

TEL(〇三)二六八—二一四一(代表)株式会社 ぎょうせい 営業課 広告の間合せ・申込み先

〒10東京都千代田区霞が関3丁目2番2号 昭和54年12月25日印刷・発行(通巻第一三五号) 集文 庁

発行所 株式会社 **ひようせい 本社下回東京都中央区銀墨?丁目4番12号 室新平原東京都新宿区西五年町28番地 電路(〇三)二六八十二四日(代表) 振替口座 東京 ルーニ六一番・ 旬刷所 ㈱行政学会印刷所

十間購読料 一五〇円 一、八〇〇円(送料二九円)